

GLOBE Voice

The Magazine of Tokyo University of Foreign Studies 2015 Number 10

東京外國語大学



2010年春に広報誌を創刊しました。タイトルは「GLOBE Voice」。「地球」と「声(=人)」という2つの言葉を合わせた造語です。東京外国语大学の使命は、「地球をつなぐ声」を発することができる人材を育てること。そのためには、さまざまな国・文化・歴史といった、背景を知ることが欠かせません。10号目となる今号は、日本研究と日本語教育の国際拠点として誕生する大学院国際日本専攻を特集します。

特集

世界の 視点で 日本を 学ぶ



2016年4月、大学院博士前期課程が生まれ変わる。東京外国语大学は、日本研究と日本語教育における長い歴史と豊富な実績があり、教員も充実している。今回の改組は、この強みを最大限に生かした形で行われる。世界から見れば日本は外国で日本語は外國語だ。その視点を持ち得る数少ない存在である本学の大学院国際日本専攻の全貌を紹介する。

文・新井幸彦 イラスト・ネモト円筆 写真・大塚俊介



Contents

- 世界の視点で日本を学ぶ —3
- 学長対談 —8
前ユネスコ事務局長 松浦晃一郎氏
- graduated active person in society —14
サントリースピリッツ
ウイスキーブランド部課長 竹内淳
青森テレビ アナウンサー 佐藤香
- person doing research —16
左右田直規／加藤晴子
- コラム「聴」 —20
菊池陽子／松永泰行／友常勉
- 歴史を刻む在学生 —24
言語文化学部(カンボジア語)2年 安部舞子
- News —26

1945年にユネスコ憲章が採択されて以来、
ユネスコは教育・文化・科学・コミュニケーションの
発展と推進を担う国連の専門機関として、
世界平和構築のためのさまざまな取り組みを続けてきた。

1999年にアジア人として初めて
ユネスコ事務局長に就任し、
10年間にわたって多くの課題解決に
尽力したのが、松浦晃一郎氏だ。
松浦氏は就任後、ユネスコの組織改革に尽力。
無形文化遺産保護条約や文化多様性条約の
採択、ドイツ・ポーランド統一教科書の作成、
初等教育の普及による貧困の撲滅など、
数多くの成果を挙げてきた。

学長 立石博高対談

文化の多様性



Hirotaka Tateishi

世界のグローバル化が進み、
国際情勢が混迷を深める中、
国際社会はどのような課題に取り組んで
いかなければならないのか。
また、多文化共生の時代に
グローバル人材として活躍するためには、
どのような資質が求められるのか。
松浦氏にお話を伺った。

文・吉田耀子 写真・竹井俊晴

こそが 人類の宝



ゲスト

松浦 晃一郎氏

前ユネスコ事務局長

Koichiro Matsuura

まつうら こういちろう

山口県出身、1937年生まれ。
東京大学法学部在学中に外交官試験に合格し、
1959年外務省に入省。
駐フランス大使や世界遺産委員会議長、
ユネスコ事務局長を歴任。
現在、公益財團法人日仏会館理事長、
一般社団法人アフリカ協会会长、
株式会社パソナグループ社外役員、
立命館大学特別招聘教授。



立石博高学長（以下、立石） 今年は戦後70年ですので、平和について、あらためて考える時期ではないかと思います。松浦さんは1999年から10年間、ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）事務局長として大変なご活躍をされました。ユネスコ憲章の前文には、「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和の砦を築かなければならぬ」という有名な言葉があります。日本ではユネスコというと「世界遺産」のイメージが強いのですが、今日はユネスコ全体の取り組みについてお話を伺えればと思

文化の多様性を維持し
互いに理解を
深めることが大切

松浦晃一郎氏（以下、松浦） ユネスコの歴史は1945年11月、ロンドンの国連会議におけるユネスコ憲章の採択を起点としております。第2次世界大戦直後、連合国と知識人は、国際連盟の失敗にかんがみて、国際連合本体は政治・軍事などのハードパワーをつけるべきだと考えました。しかし、それだけでは戦争を未然に防ぐことはできないから、ソフトパワーを強化することも重要だと考えたわけです。ソフトパワーの中でも重要なのが、「教育」「文化」「科学」「コミュニケーション」の4つ。これらを担当する国際機関が必要だというので、ユネスコが誕生したのです。

要です。2005年の「文化的表現の多样性の保護および促進に関する条約（以下、「文化多样性条約」）の採択に先立ち、2004年には私がイニシアチブをとつて、「創造都市ネットワーク」を立ち上げました。これは、文学・映画・音楽・工芸・デザイン・メディアアート・食文化の7分野から世界でも特色ある都市を認定し、互いに連携しながら新しい文化を作っていくことを目指すものです。

立石 しかしながら、20世紀末にグローバル化が進むにつれて、異質な文化が接触して摩擦を起こすケースが増えてきました。一方では文化的普遍性を掲げながら、他方では「固有の文化を大事にしろ」と言う。多文化主義と普遍的な文化といふ2つの価値観を巡って、常に軋轢が生じてきたわけです。

松浦 ユネスコの基本的な考えは、「現在ある多文化の世界をしっかりと保全していく」ということです。つまり、文化

基本的な考え方は一現
かをしっかりと保全し
こです。つまり、文化
が一元化され、世界
全体が1つの文化に
なってしまうような
事態は避けなければ
ならない。その最も
典型的な例は「言
語」です。かつては
約1万種類の言語が
あつたといわれます

か 現在は約60000種類まで減っています。先住民の言語がどんどん失われ、その文化も消えつつある。

こうした言語と文化をしっかりと保存しつつ、互いに文化交流しながら理解を深めていくことが重要です。

「文化の多様性は人類の宝である」、ただし、異文化が共存する時には問題も生じるので、交流を深めつつ、多様な文化を維持するよう努力しなければならないといふことです。

の間に架け橋を築くべく、文化的な相互交流を発展させるために、インターカルチャーラリティ（interculturality）を育成すること」が謳われています。このインターカルチャーラリティという言葉は、なかなかよい日本語訳が見つからないのですが、私は「異文化理解」「多文化共生」のことだと考えています。多様な文化が互いに衝突している中にあって、どうすれば互いの文化を尊重し、共存を図つていいのか。そうしたことを考える上で、インターネットラリティという概念は、

インター カルチュラリティ、 平和構築の鍵

立石



初等教育の普及により
世界の貧困が半減

大変重要な意味を持つよう思うのです。松浦 おっしゃる通りです。今、世界では、宗教という次元でさまざまな衝突が起っています。暴力によって相手の文化を蹂躪するようなことは、決してあってはならないことです。自分たちの文化も相手の文化も大切にした上で、互いの存在や考え方を認め、交流を深めていくのが基本。そのことを、世界の皆さんに考えていただきたいですね。

A man in a dark suit and tie is seated at a light-colored wooden desk, looking down at some papers. He is wearing glasses and has his hands clasped on the desk. To his left, another person's arm and shoulder are visible, suggesting a meeting or interview setting.

A medium shot of a man from the waist up, captured in profile as he turns his head towards the right. He is wearing a dark suit jacket over a white collared shirt and a striped tie. His hands are raised and open, palms facing forward, suggesting he is in the middle of a conversation or explanation. The background is a plain, light-colored wall.

「心の中に平和
磐を築く」

「教育」なんですね。ただし、「教育」の国際交流には何かと難しい面があり、目に見える成果が出にくいい。

一方、「文化」のほうは成果がはつきりとしています。世界遺産条約の対象となるのは文化遺産と自然遺産ですが、従来の文化遺産は不動産を中心だつたんですね。それでは不十分だというので「無形文化遺産」というカテゴリーを作り、日本からは能楽や文楽、歌舞伎などが登

しかし、無形文化遺産を新たに加えるにあたっては、西欧諸国からの強い反対がありました。「人類の文化遺産とは歴史的建造物と遺跡に尽きる、あとはそれには付随するものだ」というのが西欧の考え方なんですね。だから、彼らは、独立した無形文化遺産の条約を作ることには反対だった。しかし、ユネスコ憲章の前文にある「心の中に平和の砦を築かなければならぬ」という文言は、「文化を広く解釈しないといけない」ということを意

式舞踊がユネスコ無形文化遺産に登録されましたが、アイヌの方々はそのことを大変誇りにしています。一生懸命アイヌ語を勉強しているという、若いアイヌ人女性にも出会いました。かつてはアイヌ語を学ぶことさえ禁じられていたわけですが、今、ようやく誇りを持つてアイヌ文化を守つていけるようになつた。もつと

まさに、そこが鍵なのです。ユネスコ憲章ではそう書いていたがら、実際の条約では「文化」を狭く解釈している。世界遺産条約が採択されたのは1972年ですが、80年代以降、専門家の間で「文化をもつと広く捉えるべきだ」という意見が出てきました。私がユネスコ事務局長に就任してから2年後の2001年、パリで開かれたユネスコ総会では、「文化の多様性に関するユネスコ世界宣言」を採択しています。その第1条に「文化の多様性は人類の宝である」という一文化がありますが、ここで言う「文化」とは人々の生活様式を指しています。

一方で、伝統的な文化を保護すると同時に、新しい文化を作っていくことも重

「教育」なんですね。ただし、「教育」の国

しかし、無形文化遺産を新たに加える
にあたっては、西欧諸国からの強い反対

味しています。

早くやるべきだったと思えてなりません。

立石 ユネスコでは、教育の中で、できるだけ母語を学ぶという取り組みを推進しておられますよね。

松浦 ええ、それがまさに当てはまるのが南米です。南米は多民族国家で、ブルジル以外ではスペイン語が唯一の共通語です。しかし、南米では今も先住民の言葉が生きていて、先住民が大きな力を持つ国と、スペイン系住民が力を持つ国があります。

例えばパラグアイでは、グアラニーと

いう先住民族が人口の25%を占めているため、スペイン語とグアラニー語の2つを公用語にしました。ところが、残り75%の人々は他民族の言葉を学ばなければならず、これに抵抗する動きが出ている。

立石 理念的には、共通の言語と多様な言語の両方を大切にしなければならない。しかし、小さな国がこうした政策を進めるには限界もあるので、国連が働きかける必要があるわけですね。

松浦 大切なのは、各々の民族の言葉を、他の部族の出身なので、家ではスペイン語で会話している。子どもたちは学校で、タンザニアやモザンビークではかなり普及しています。ただし、スペイン語の普及にあたっては、矛盾もないわけで、タングニアやモザンビークではなかなか普及していません。ただし、スペイン語は人工的に作った言葉に押されて廃れてしまうというのは、スペイン語が広まることによるプログラミナスです。部族の言葉がスペイン語に押されて廃れてしまうというのは、ユネスコ的な考え方から言えば、けつしで望ましいことではありません。

松浦 そういう言語圏の問題は、いろいろな問題が重なり合っているから、丁寧に見ていく必要がありますね。

大切なのは、異文化への理解を互いに深めること

——松浦



ンドからの依頼で統一教科書を作ったことがあります。ユネスコが中心となり、ドイツとポーランド、第三国専門家を投入して作業を進めたのですが、これはかなり成功しました。ドイツとポーランドは、統一教科書作りを通じて歴史認識の共通化を図ったわけです。

その後、韓国と中国からもアプローチがありましてね。ドイツとポーランドの例にならって、日中韓3カ国の教科書の共通化をぜひユネスコで手がけてほしいという。ところが、日本が反対したんですね。日韓2カ国では統一教科書作りが行われましたが、肝心な部分はできなかつた。ユネスコが入ることによって成功したかどうかはわかりませんが、そうした試みを始めること自体に意味があつたのではないかと思います。

私が1999年11月にユネスコ事務局長に就任して以来、特に力を入れたのは「途上国の教育水準の向上」です。2000年4月に開かれた世界教育フォーラムで、ユネスコが中心となつて6つの目標を採択しました。このうち2つが、同年9月に国連で採択されたミレニアム開発目標に盛り込まれたのです。

困窮と飢餓の撲滅」をはじめとして8つの目標が掲げられました。その2番目に「すべての児童が基礎教育を受けられるようにすること」、3番目に「教育における男女格差の解消」が盛り込まれました。当時、極度の貧困層の数は12億人でした。が、初等教育が普及した結果、今ではほぼ半減しています。

世界で活躍するためにには、歴史の知識が不可欠

——立石



松浦 もう一つ大切なことは、自分の得意な分野に精通することです。例えばユネスコなら、初等教育あるいは職業教育、高等教育、識字教育など、何らかの専門分野を持つ。全体像を理解するだけでなく、縦に深く専門分野の知識を掘り下げていく必要があります。一方で、幅広い知識がなければ、専門分野の仕事を本当にこなすことはできない。横の広がりと縦の掘り下げ、その両方が必要になってくるわけです。

立石 ものの見方としてだけでなく、学問分野でもグローバルとローカルの2つがあるわけですね。東京外大もそこに近づけるよう努力したいと思います。松浦 東京外大は専門地域でもいいと思います。例えばフランス語圏では、最近、アフリカのことをやるために、フランス語をしつかり学ばないといけない。スペイン語もラテンアメリカがありますから、非常に対象が広いです。

立石 本学では3年前、国際社会学部にアフリカ専攻を作りました。ここでは、英語とともにフランス語やポルトガル語、スペイン語などの地域言語を教えながら、言語教育と地域教育を行っています。

松浦 スペイン語が広がるのはありがたいことです。スペイン語を勉強すれば、東アフリカの広い範囲の人と交流ができる人材を育てていきたいですね。私どもも精一杯頑張っておりますので、ぜひご支援いただければと思います。▼

1976年東京外国语大学在籍
学部スペイン語学科卒業、78年東京
都立大学大学院人文科学系研究科史
学専攻修士課程修了、同志社大学
商学部助教授を経て、92年から東京
外国语大学に在籍、2013年4月
より学長就任。著書に「スペイン歴
史散歩—多文化多言語社会の明
日に向けて」(行路社)など。

立石 自分が取り組んでいる分野の学問的素養を高めると同時に、ものの見方や考え方を身につけなければならないということですね。

松浦 国際機関で働く場合は、現時点での問題を理解するだけでなく、世界史をしっかりと学ぶ必要があります。世界全体の歴史とアジアの歴史、日本の歴史を理解する。そして俯瞰的な視点を持つた上でしっかりと勉強することが大切です。

立石 世界でリーダーとしての役割を果たしていくためには、じっくりした教養、特に歴史についての知識が必要だということですね。

学校で学べるようにしていくことです。東アフリカでは、スペイン語が徐々に共通語として使われるようになってきています。スペイン語は人工的に作った言葉で、タンザニアやモザンビークではかなり普及しています。ただし、スペイン語の普及にあたっては、矛盾もないわけで、タングニアやモザンビークではなかなか普及していません。ただし、スペイン語は人工的に作った言葉を知らない」と言うのです。これは、スペイン語が広まることによるプログラミナスです。部族の言葉がスペイン語に押されて廃れてしまうというのは、ユネスコ的な考え方から言えば、けつしで望ましいことではありません。

立石 そういう言語圏の問題は、いろいろな問題が重なり合っているから、丁寧に見ていく必要がありますね。

立石 ところで、ユネスコは教育に注力しているそうですが、具体的にどのような点に力を入れているのですか。

松浦 ユネスコが発足した当初は、各国の教育制度の見直しやレビューを行っていました。ところが、教育とは各国の主権に関わる重要な部分ですから、先進国の中では、ユネスコが教育に介入することを歓迎しないムードがある。このため、現在は教育交流は行っているものの、具体的な教育内容についてレビューするのは難しいのが現状です。

ユネスコは80年代に、ドイツとポーラ



graduated active person in society_02

言葉の力で、人を元気にしたい

佐藤 香

青森テレビ アナウンサー

「言葉の力ってすごいと思うんで
す。人を元気にすることもあれば
傷つけることもある。常にそれを
意識して仕事に臨んでいます」
そう語るのは青森テレビのアナ
ウンサー・佐藤香さん。2015
年春に始まった夕方の情報番組
「わっち!!」でMCを務めている。
高校生の時に訪れたオーブンキ
ヤンパスで1・2年次の専攻語の
勉強がキツイと耳にし、「選んだ
言語が自分に合わなかつたら」と
いう不安もあり日本語専攻を志望。
クラスの3分の2が海外からの留
学生という環境の中で、異文化に
触れ、比較言語学などの授業を通
じて日本語への興味も深まつた。
小さい頃から家族に「アナウン
サーになつたら」と言われるほど
のおしゃべりで、小学校の修学旅
行で訪れたテレビ局でニュースを
読んだ体験が印象に残つた。だが、
アナウンサーを目指した直接のき
っかけは「物事には普段は気付か
ない、見えない面があると知つた
こと。放送・報道の仕事ならそ
ういう部分を広く人に伝えられると
思つたから」。

A photograph of a woman with short brown hair, wearing a dark dress, singing into a microphone. A man in a dark shirt is visible behind her, playing drums. The background is a green curtain.

大学時代は軽音サークルに所属。ボーカルとして椎名林檎をはじめさまざまなジャンルの曲を歌った。

さとう かおり
2011年東京外国語大学外国语学部日本課程日本語専攻卒業。同年青森テレビに入社。情報番組取材班として青森の魅力を取材・紹介。2015年春から新番組「わっち!!」のMCとして、週2回、生放送に出演している。



graduated active person in society_01

頑張れるものを見つける

サントリースピリッツ ウイスキーブランド部課長

高校時代、将来は海外で仕事をしたい、少人数の大学がいいと東京外大を選択。「体制や設備はマンモス大学にかなわない。その分自然に自分で考え、動くようになるんだと思います。世間流れせず、にいられたのも外大だからこそ」。在学中はそれまでルールも知らなかつたアメリカンフットボールにのめり込み、仲間と汗をかいた。「その4年間のおかげで今の自分がある」と今も月に一度は大学に足を運び、後輩のコーチを務める。竹内さんのウイスキー愛は並々ならぬもので、自腹でスコットラ



「自ら考え行動し、誰よりも汗をかく努力を惜しまず、外大生の手本になる」ことを教わったアメフト部。

ンド、アイルランド、アメリカのウイスキーの蒸留所を訪ね歩き、舌を肥やし知識を増やした。新しいハイボールスタイルでは「一軒目から焼き鳥を片手に」飲めることをを目指し、ジヨツキナレモン入りを提案。周囲から反対の声も上がったが、あきらめずに押し通せたのは「好きなことだし、これならいけるという確信があった」から。「語学だけをウリにする外大卒業生は会社で印象の薄い存在になりがち。在学中に視野を広げ、誰よりも好きなもの、これなら頑張れる」というものを見つけてほしい」と。今手がけているのは、2014年に統合したビームサントリーソのバーボンを使つたハイボール。新発売の缶商品は、海外での展開も視野に入れている。かつては海外生活に憧れていたが、日本にいながらにして国際舞台で活躍できる状況になつた。

「手間暇を惜しまないのが日本人の良さ。日本発のグローバル化を進めて、日米の長所をうまくミックスさせた商品や企画を生み出したいります」▼

たけうち あつし
1998年東京外国語大学外
語学部スペイン語専攻卒業
同年サントリー(現・サントリー
ールディングス)に入社。営業
して池袋を担当。池袋だけでは
なく、日本全体に洋酒の美味
さを伝えたい思いから現職に
動。自分の「好き」を大事にお
の美味しさを伝え続けている。

将来は番組作りにも関わりたいと思い、地方局で自社制作番組の多い青森テレビを受験、入社したのは東日本大震災の翌月だった。「福島の実家が被災したことであつて、テレビの報道内容やアナウンサーの一言一言に神経を尖らせしていました。時には、言葉に心がこもっていないと思うことも……」。言葉の力を改めてかみしめ、アナウンサーとしてあるべき姿を心に刻んだ。

「本来は人見知り」の性格だが、持ち前のサービス精神と好奇心でグルメレポートや街歩きの取材をこなす。大学で打ち込んだサークルのバンド活動はアナウンサーバンドに、1年次に学んだ朝鮮語はソウル取材にと、学生時代の経験が現在の仕事や生活につながっている。急遽決まつた香港取材では突然の連絡にもかかわらず元同級生(留学生)がガイドをしてくれた青森の夏の風物詩「ねぶた祭」にも太鼓で参加するようになり、今日も「もつと視聴者に近い存在になりたい」と街へ出る。▼

地域に根ざした多民族共存の姿を求めて

Interview with Naoki Soda

1 1981年にマレーシアの首相に就任したマハティールはルック・イースト政策を提唱。「経済大国日本の高度な技術と勤労倫理に学べ」と国民を叱咤激励した。だが、近年、日本の相対的地位が低下する一方で、マレーシアは新興国として自信を深めつつある。例えば、ここ数年、マレーシア政府局は、日本人学生を研修旅行に招待し、マレーシアを体験してもらおうというプログラムを実施している。その背景には、多民族国家マレーシアからグローバル化の真髓を学んでもらい、より対等なパートナーシップを樹立しようという狙いがある。

多民族国家は、ともすれば民族紛争の火種を抱えがちだ。だが、マレーシアはマレーア人をはじめとする先住諸民族(ブミプトラ)、華人、インド人などからなる多民族を抱えつつも、それなりに調和と均衡のとれた社会を作り上げてきたように見える。なぜ、それが可能だったのか——地域研究者・左

右田直規氏の探求の旅は、この間から始まった。「私はこれまで、英領マラヤにおける植民地教育とマレー民族意識の形成について研究してきました。今後は、マレーシアの歴史教育を通じて、多民族を包摂してきたがどのようにして形成されてきたのか、ということについても考え方を始めた時の原点に立ち返りつあるのかもしれません」

東欧革命の衝撃が研究の原点

研究者としての原点は、小学校低学年の頃に遡る。TBS系列のテレビ番組「兼高かおる世界の旅」に触発され、「世界地理オタク」となった。大学に進学した1989年、東欧革命が勃発。民主化の動きはソ連崩壊や東西ドイツ統一へと波及し、世界地図が塗り替えられていくのを目の当たりにした。「地理で覚えた国名が変わっ

ていくのを見て、『こんなことがあるのか』と驚きました。民族問題やナショナリズムを研究したいと考えるようになつたのは、それがきっかけです」

学部生時代には研究対象としてソ連や東欧も考えたが、最終的にはマレーシア研究を志し、大学院に進学した。世界中で民族紛争が起っているにもかかわらず、多民族国家マレーシアでは民族間の軋轢があまり表面化しない。その秘密は何かというのが、マレーシアに興味を抱いた理由だつた。卒業前にマレーシアを一人旅し、旅先の人々の温かさと寛容さが印象に残つたことも決め手となつた。

博士後期課程2年の時、マレーシア国民大学に留学。当初の研究テーマは、「マレーシアの成立を支えた政治思想」だつた。友達の輪も広がり、楽しい留学生生活だつたが、なかなか研究の展望は開けてこない。研究仲間が着々と成果を出していくのを横目で見ながら、左右田氏は悶々とした。暗中模索

多民族・多宗教・多文化の接触は、ともすれば民族紛争の火種となりがちだ。

そんな中、マレーシアは多民族国家でありながら、調和ある社会を築いてきた。

なぜ、かの地ではそれが可能だつたのか。

そこには、グローバル化が進む世界で平和を築くためのヒントが隠されている。

左右田直規准教授

大学院総合国際学研究院

そうだなおき
1993年京都大学法学部卒業、95年同大学院人間・環境学研究科文化・地域環境専攻修了。
99年同大学院人間・環境学研究科文化・地域環境専攻単位取得満期退学。
2008年博士号(地域研究)取得。
2008年より助教授(のちに准教授に改称)。



多様性を前提とした制度や政策が均衡と安定をもたらした

とはいえる、マレーシアにも過去に民族紛争がなかつたわけではない。1969年の総選挙後にはマレーア人と華人とが衝突し、1969名が亡くなる大惨事が勃発している(5月13日事件)。これを機に、国民の過半数を占めるにもかわらず、経済的地位が相対的に低かった、マレーア人をはじめとするブミプトラを優遇する「新経済政策」が導入された。これがマレーシアの政治・社会の安定化に一定の役割を果たしていったことに気づいた。

「マレーシアがそれなりに安定している最大の理由は、民族や地域の多様性を前提とした国作りがされています。強引な同化政策はあまりとられず、多民族・多宗教・多文化が共存するこ

とが前提となつてゐる。もう一つの要因は、着実な経済発展とブミプトラ優遇政策が、国民全体の生活水準の向上と民族間の格差是正をもたらしたことです。ブミプトラ優遇政策は、非効率や非ブミプトラの不公平感などさまざまな問題を生じ、抜本的に見直すべき時間が来ていますが、ブミプトラの地位を向上させ、社会的安定に寄与した面もあり、歴史的に一定の役割を果たしたといえます」

多民族国家であり、さまざまなかつた、マレーア人をはじめとするブミプトラを優遇する「新経済政策」が導入された。これがマレーシアの政治・社会の安定化に一定の役割を果たした、と左右田氏は指摘する。

「マレーシアがそれなりに安定している最大の理由は、民族や地域の多様性を前提とした国作りがされています。強引な同化政策はあまりとられず、多民族・多宗教・多文化が共存するこ

とが前提となつてゐる。もう一つの要因は、着実な経済発展とブミプトラ優遇政策が、国民全体の生活水準の向上と民族間の格差是正をもたらしたことです。ブミプトラ優遇政策は、非効率や非ブミプトラの不公平感などさまざまな問題を生じ、抜本的に見直すべき時間が来ていますが、ブミプトラの地位を向上させ、社会的安定に寄与した面もあり、歴史的に一定の役割を果たしたといえます」

多民族国家であり、さまざまなかつた、マレーア人をはじめとするブミプトラを優遇する「新経済政策」が導入された。これがマレーシアの政治・社会の安定化に一定の役割を果たした、と左右田氏は指摘する。



留学先のマレーシア国民大学での院生のパーティー。

「マレーシアがそれなりに安定している最大の理由は、民族や地域の多様性を前提とした国作りがされています。強引な同化政策はあまりとられず、多民族・多宗教・多文化が共存するこ

とが前提となつてゐる。もう一つの要因は、着実な経済発展とブミプトラ優遇政策が、国民全体の生活水準の向上と民族間の格差是正をもたらしたことです。ブミプトラ優遇政策は、非効率や非ブミプトラの不公平感などさまざまな問題を生じ、抜本的に見直すべき時間が来ていますが、ブミプトラの地位を向上させ、社会的安定に寄与した面もあり、歴史的に一定の役割を果たしたといえます」

多民族国家であり、さまざまなかつた、マレーア人をはじめとするブミプトラを優遇する「新経済政策」が導入された。これがマレーシアの政治・社会の安定化に一定の役割を果たした、と左右田氏は指摘する。



英領マラヤにおける汎マレー・アイデンティティの形成』)に結実することとなつた。

多民族国家であるマレーシアから調和と均衡のとれた社会について探る。



マレーシアの古典的名作『カンボンボーイ』(上)の監訳と『タウンボーイ』(下)の翻訳を担当した。

言語学の立場から「視座の違い」を探求

Interview with Hanako Kato

古くから漢字文化圏を形成した日本と中国は、政治・経済・文化のあらゆる面で深く結びついてきた。だが、日本語と中国語とは似て非なる存在。「中国語と日本語は発音や構造が違うだけでなく、視点・視座の取り方にも違いが見られます」と、中国語学者・加藤晴子氏は語る。

例えば「くる・いく」という言葉がある。日本語では「李さんが森を歩いていると、虎が飛びかかってきた」と書くところを、中国語では「虎が飛びかかる」。と表現する場合があるという。「日本語の小説では、作者が主人



中国語と日本語とは似て非なる存在。
著書(共著)や監修した本は多数。

公の視点で語ることが多いのに對して、中国語の小説では、作者が「神の視点」で上空から全体を俯瞰する傾向がある。これを言語的に裏付けることができないものか、と考えています」

すべてはNHKラジオの「基礎英語」から始まった

加藤氏が初めて外国語と接したのは、小学2年の頃。父の勧めで、NHKラジオ講座「基礎英語」を聴き始めたのがきっかけだった。中学に入学すると、「ほかの人があやらない言葉を学びたい」と考え、当時はまだ「マイナーライ語」だった中国語を学びはじめた。

1982年に東京外国语大学に入学し、中国語を専攻。授業でチエコの言語学者ヴィレーム・マテジウス

卒業後は就職も考えたが、「た

また試験を受けたら合格してしまい」、大学院に進学。当時、東京外大には博士後期課程がなく、88年9月から1年間の予定で北京大

学に留学した。

すでに邓小平による改革開放路

線が始まっていたとはいえ、当時

の中国は「まだ経済成長前夜」。

外大には博士後期課程がなく、88年9月から1年間の予定で北京大

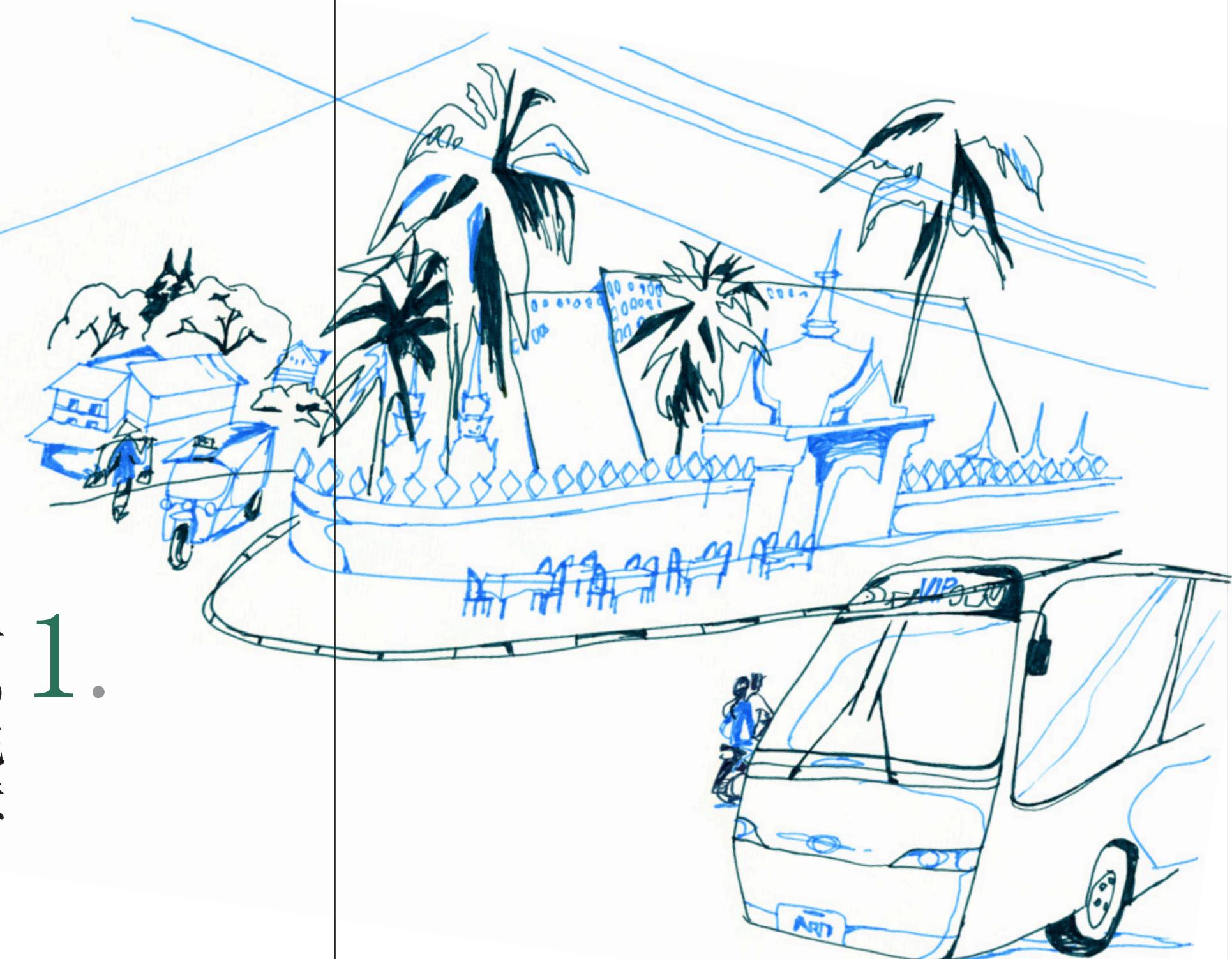
学に留学した。

「聴」

kiku

「聴は耳声を待つなり」。江戸時代の儒学者荻生徂徠の言葉とされる。何気ない日常の中で、偶然あるいは必然に飛び込んでくる音がある。その音は突然で劇的かもしれない。音色に表情があるのなら、人は耳を傾け、そしてその音に隠されている心をつかまえようとするだろう。「聴」。五感で受け止めたその音色は、なぜか時が経つても色褪ぜることなく、深く心に刻まれている……。

1.



20年以上前、ラオス語を学ぶためにラオスの首都ビエンチャンに行つた。ラオス語が全くわからないまま、とにかく行つてしまつた。ラオス語の初心者向け授業の開始に合わせて行つたはずが、同じ授業に参加する予定のベトナム人留学生の到着が2週間、3週間に遅れ、結局授業が始まったのは1カ月以上経つてからであった。2年間滞在予定の地を観光客のように観光する氣にもなれなかつたし、当時のラオスには首都でさえも映画館もなかつたから、何をするあてもないまま、ぱつかりと時間が空いた。今、思い返すと、あの時間が人生で一番暇だつたのではないかと思う。とにかく1日が長かつた。

ニワトリの鳴き声、人々の動き出す音で朝が来た。文字を読むことで得られる情報がほとんどなかつたから、景色を見て、人々や街の音を聴いて過ごしていた。バスやジャンボと早稲田大学大学院文学研究科専門はラオス近現代史。共編著書『ラオスを知るための60章』(明石書店、2010年)、訳書『ラオス史(マーチン・スチュアート・フォックス著/めこん、2010年)など。

音の記憶

大学院総合国際学研究院国際社会部門准教授
菊池陽子
Text: Yoko Kikuchi

呼ばれている三輪自動車の走る音、フランスパン、果物、アイスクリーム等々の屋台が奏でる音、食事の支度をしたり、食器を洗つたりする音、市場へけば商売上手なお母さんたちの物売りの声があちこちに響いていたし、夕方には子供たちの遊ぶ声や道端の飲み屋で一杯飲んでいる人々の楽しそうな声が聴こえた。言葉がわからなかつたから、人々の言葉は、私にとっては意味にならない音のつながりだつたが、その間罵声や怒声といった耳障りな声を聞いた記憶がない。ラオス語は耳にやさしく、首都の中心でさえ、聞こえてきたのは人々の生活の音であった。

そして、記憶の中のかつてのビエンチャン

は、昼下がりになると一切の音が消えた。當時はまだ昼食後の午睡の習慣が残っていたのだが、人も動物も生きとし生けるものすべてが動きをやめ、眠りについたような静けさに街が包まれた。目覚めている自分一人が、別世界の迷宮で白昼夢を見ているのだという感じにとらわれたその感覚を今でも思い出す。

静寂だけが聴こえた。

そのうちラオス語の授業が始まつて、ラオス語は、意味にならない音から意味を持つ言葉に変化していった。意味を持つ言葉が見えるようになるにつれ、情報量が増え、言葉を介しての記憶に変わつていった。

あれから20年以上が経つた今、もうビエンチャンでは静寂は聴こえない。経済成長、発展の中心の首都ビエンチャンは、一日中騒がしい、かつてと比べると格段に忙しい街になつてしまつた。今となつては、あの時、本当に白昼夢を見ていたのだと思う。▼

私の専門分野は比較政治学です。比較政治学とは、簡単に言うと、外国のことを研究する会科学の一分野です。

同時に、一般になぜ我々は政治を必要とし、人々が政治を実践する際、通常どのようなことが起こるのかを踏まえた上で、研究対象の国の政治の特徴や問題点などについて、詳しく検証します。

私は中東諸国には全て関心がありますが、その中でも特に研究対象としている国はイランです。イランの公用語はペルシア語ですが、多言語・他民族国家ですので、地方によっては、例えばトルコ語の一つであるアーザギー語などを第一言語として話す人達もいます。

さらにイスラーム教徒が人口の99%を占める国なので、ペルシア語の語彙にはアラビア語起源の言葉もたくさん含まれています。私は残念ながら若いときにトルコ語は勉強し損なつたので、ペルシア語とアラビア語しか理解できませんが、どちらも研究のために使っています。

実は比較政治学の中にも様々な研究手法があり、定量分析といって数値化されたデータを主に使うものや、世論調査など聞き取りデ

ータに依拠する分析手法もあります。これらを使う場合には、外国語は全く不要であったことになります。ただそれでは、外国の社会で争点となっている問題を深く理解し分析することは難しいといえます。私の研究方法はこれらとは正反対で、まず言葉を勉強し、歴史や文化を勉強した後で、実際の政治分析に乗り出すという、地域研究的な手法をとっています。

ただその際、個人的なこだわりとして、気をつけていることがあります。政治というのは機微な問題を多く含むものですから、外国人の私がその国の政治過程に介入するのは倫理的ではないと思い、常に注意しています。そのため、研究対象を理解するためには、その懐に入していくことが必要なのですが、それと同時に研究対象から一定の距離を保ちながら（つまりスパイのようにこっそり隠れて）観察することを心がけています。そこで多用している方法が「聴く」ことです。もちろん当初はイランの人達とたくさん話をすることが必要でしたが、ある程度理解が進むと、後は（書かれたものも含め）話された言葉を「聴く」技術を磨くことで、かなりのことが説明できると考えています。▼

2. 外国研究と「聴く」こと

松永泰行
Text: Yasuyuki Matsunaga

まつながやすゆき
2006年ニューヨーク大学院日本大使館専門調査員。専門は比較政治学・紛争研究・中東地域研究。共著に『イスラーム国』の脅威とイラク』(岩波書店、2014年)、『中東政治学』(有斐閣、2012年)など。

3. 靈氣をまとつた (音)

大学院国際日本学研究院准教授
友常勉
Text: Tsutomu Tomotsune

今年、河出書房新社から復刻された新谷行『アイヌ民族抵抗史』の解題を書いた縁で、著者の新谷行について調べることがあった。

新谷行(本名・新屋英行)は1932年、北海道留萌郡の生まれで、1979年に没した。中央大学を卒業後、出版社勤務などをしながら、金子光晴に師事、2冊の詩集を出すが、北海道にもどり、在野の研究者として、アイヌ民族の権利を復権する立場から、力のこもった歴史書と詩集を出版した。主著『アイヌ民族抵抗史』は1972年に出版された。

私は30年近くまえ、学部生のときにはこの本の増補版を読んでいる。そのときには夢にも思わなかつたが、そして解題を書くまでまったく思いもよらなかつたが、2013年になって、彼の祖母がアイヌ民族だったことを、親しい文学仲間が明らかにした。新谷は一度、親

新聞のインタビューでその出自に言及していた。しかし、生前はそのことを夫人にもいわなかつたし、アイヌ民族の親しい知人たちも、新谷を、「和人」の立場から、アイヌ民族のために尽くした作家だと思い込んでいた。それを生前の新谷は一度も訂正しなかつた。夫人は新谷没後の1980年にその事実を公開したのだが、それは必ずしも広く知られることはならなかつた。

しかし、今あらためて新谷の詩集を読み返してみると、出自を否定してきた自分自身への呪詛が聴こえてくるのである。

アイヌ語の口承文芸であるハウキ(英雄叙事詩)やレクフカラ(鳥の鳴きまねをする喉鳴らし)、イフンケ(子守歌)などには、意味をもたない擬態語や擬音、動物の鳴き声、「フィラー」(意味を持たない間投詞)のようなものが、規則化された形式を備えて、頻繁に用いら



ともつねつとむ

大学院国際日本学研究院准教授 東京外国语大学地域文化研究所博士後期課程退。学術博士。専門は日本思想史。著書に「始原と反復本居宣長における言葉という問題」(三元社)、「脱構成的叛乱」(以文社)、「戦後部落解放運動史」(河出書房新社)、近著に「戦争はどうに語られてきたか」(河出書房新社、共著)など。

興味を持つことが学びの原動力

安部舞子

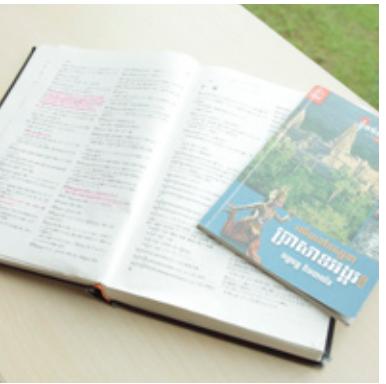
言語文化学部（カンボジア語）2年

Influential Face 歴史を刻む 在学生

Text by
Yoko Yoshida
Photo by
Misato Iwasaki



〈上〉カンボジアで
寺院の装飾に用いられる
布「ピダン」(©CYK)とカンボジアにまつわる
思い出の写真。
〈中〉初めて母と訪れたカンボジア旅行では、
現地の文化や風土に触れられて、
とても刺激を受けた。
〈下〉1年生より使用しているカンボジア語辞典と
教材としても使用しているカンボジアの
ガイドブック。



東京外大を志望したのは、高2の時に訪れた外語祭がきっかけだ。カンボジア語の屋台で食べたかぼちゃプリンと祭の楽しさが忘れられず、東京外大を受験。アンコールワットが象徴する壮大な歴史に惹かれ、カンボジア語を専攻した。

「発展途上にあるカンボジアは、活気や将来性に満ちています。日本の大学で専攻語としてカンボジア語が学べるのは東京外大だけ。言語だけでなく文化も学べるので、ここに来て本当によかったです」

とはいって、固有の文字を持つ新たな言語を学ぶのは容易ではなかったが、カンボジアの文化を学べば学ぶほど、その奥深さに魅了されていったという。

「例えばカンボジアには、人が死ぬと故人の息子や孫（男の子）が剃髪する風習があります。私自身も語劇で剃髪した男の子の役を演じ、その風習に対する理解が深まりました。以前は異文化に対して先入観を抱きがちでしたが、東京外大で学ぶうちに、先入観を払拭して異文化と接することができるようになりました」

授業では東京外大名物の「27言語リレー」がお気に入り。これは、東京外大で学べる専攻言語の講義をリレー形式で受講するものだ。また、都内の国立単科大学による「四大学連合」の単位互換制度を利用して、東京工業大学で都市計画学を受講。カンボジアの歴史的な都市の成り立ちを考えるヒントになったという。

「東京外大は、いろいろな大学と単位互換ができるので、自分の意志さえあれば幅広く学ぶことができます」と安部さん。学業やサークル活動の傍ら、毎日新聞の学生記者も経験し、今はマスコミの仕事に興味があるという。

「カンボジア語という言語を通じて、人と少し違った観点を持つことができた。それがいつか仕事に生きるのではないかと思います。皆さんも何かに興味を持ったら、どんどん行動してほしい。興味が持てることが一つでもあれば、それが学びの原動力になりますから」

Maiko Abe
2013年東京外国语大学入学。
高校時代に外語祭を訪れたのがきっかけで東京外大を志望。
学業の傍ら着付けや
四大学連合のスタッフなど多方面で活躍。
東京都出身。



東京外大でしか学べない
言語から得た
「人と違った視点を持つ」
という強み

社会の全体構造に位置づけることを企図しています。巨大都市の社会的実態に着目しながら、都市下層社会を具体的な分析対象とし、「下」から試みるものであります。

都市社会の全体把握を目的しながら、都市下層社会を具体的な分析対象とし、「下」から試みるものであります。

02

お世話になりました。
退任する先生たちからの
「手紙」

白井佐知子
USU Sachiko

何に対しても興味を持ち、あれこれ手をつけてきましたが、中国と人文社会科

学とは長いつき合いにな

りました。研究者としての幸運をいうのであれば、奥深い中国と

幸運は東京

外國語大学

の学生たちとの出会いで

ただ最近は現状に即応で

きる課題と人材育成が求め

ですが、教員としての幸運は社会との出会いで

幸運をいうのであれば、奥

深い中国と

幸運は東京

外國語大学

の学生たちとの出会いで

ながり、真の評価を受ける要諦だと信じています。

文章で、いわば私にとって論理的な文章を書くということの原点です」

○お薦めの1冊
『なぜ日本は没落するか』
岩波現代文庫
森嶋通夫著

○お薦めの1冊
『自文化中心主義が多い日本論』
の中、本書は社会科学という真理の観点から腐敗した21世紀日本の悲観的な到着点を冷徹なまでに見通している

○お薦めの1冊
『東南アジア文学』(表) 南アジア文学が日本に紹介されたのは70年代ですが、知名度はいまいちです。これまで邦訳された作品は500点を超えます。これは日本だけの現象で、すごいことだと思っています。それがタイ文学でした。東南アジア文学が日本に紹介されたのは70年代ですが、知名度はいまいちです。これまで邦訳された作品は500点を超えます。これは日本だけの現象で、すごいことだと思っています。それがタイ文学でした。東南アジア文学が日本に紹介されたのは70年代ですが、知名度はいまいちです。これまで邦訳された作品は500点を超えます。これは日本だけの現象で、すごいことだと思っています。それがタイ文学でした。東南アジア文学が日本に紹介されたのは70年代ですが、知名度はいまいちです。これまで邦訳された作品は500点を超えます。これは日本だけの現象で、すごいことだと思っています。それがタイ文学でした。東南アジア文学が日本に紹介されたのは70年代ですが、知名度はいまいちです。これまで邦訳された作品は500点を超えます。これは日本だけの現象で、すごいことだと思っています。それがタイ文学でした。東南アジア文学が日本に紹介されたのは70年代ですが、知名度はいまいちです。これまで邦訳された作品は500点を超えます。これは日本だけの現象で、すごいことだと思っています。それがタイ文学でした。東南アジア文学が日本に紹介されたのは70年代ですが、知名度はいまいちです。これまで邦訳された作品は500点を超えます。これは日本だけの現象で、すごいことだと思っています。それがタイ文学でした。東南アジア文学が日本に紹介されたのは70年代ですが、知名度はいまいちです。これまで邦訳された作品は500点を超えます。これは日本だけの現象で、すごいことだと思っています。それがタイ文学でした。東南アジア文学が日本に紹介されたのは70年代ですが、知名度はいまいちです。これまで邦訳された作品は500点を超える

○お薦めの1冊
『新旧約聖書』
論語
「生を通じ、就寝前に一節を読みと良いでしょう」

ついた。小農民が一粒一粒の米や麦を得るには、額に汗して働かなければ駄目だということを知っているのと同じであった。至言である。

○お薦めの1冊
『佐藤公彦』
東京外大
狭いキヤンバスから移転して15年。
佐藤公彦
も西ヶ原の樹々も育ち奇麗になつた。しかし東京外大の足跡はそこには無い。日本近代の諸学の基礎になった外国语習得の初心や真剣さは失われつつある。「精進精勤」を。

○お薦めの1冊
『高垣敏博』
TAKAGAKI Toshihiko
西ヶ原キャンパスの4年半を含めて19年勤めました。専攻語や学問領域、学内の様々なセクションを越えて、第一線の研究者である同僚の皆さんと親しく日常的に交流できたことが一番の収穫でした。大学の仕事に追われながらも、のびのび研究でき大満足です。またリレー講義などを通して、スペイン語だけではなく、学部や大学院の学生諸君に接することでできるのができるのも楽しんでいました。東京外大のよう

○お薦めの1冊
『鶴長明』
TAKAGAKI Toshihiko
西ヶ原キャンパスの4年半を含めて19年勤めました。専攻語や学問領域、学内の様々なセクションを越えて、第一線の研究者である同僚の皆さんと親しく日常的に交流できたことが一番の収穫でした。大学の仕事に追われながらも、のびのび研究でき大満足です。またリレー講義などを通して、スペイン語だけではなく、学部や大学院の学生諸君に接することでできるのができるのも楽しんでいました。東京外大のよう

○お薦めの1冊
『理由4』
TAKAGAKI Toshihiko
西ヶ原キャンパスの4年半を含めて19年勤めました。専攻語や学問領域、学内の様々なセクションを越えて、第一線の研究者である同僚の皆さんと親しく日常的に交流できたことが一番の収穫でした。大学の仕事に追われながらも、のびのび研究でき大満足です。またリレー講義などを通して、スペイン語だけではなく、学部や大学院の学生諸君に接することでできるのができるのも楽しんでいました。東京外大のよう

○お薦めの1冊
『理由3』
TAKAGAKI Toshihiko
西ヶ原キャンパスの4年半を含めて19年勤めました。専攻語や学問領域、学内の様々なセクションを越えて、第一線の研究者である同僚の皆さんと親しく日常的に交流できたことが一番の収穫でした。大学の仕事に追われながらも、のびのび研究でき大満足です。またリレー講義などを通して、スペイン語だけではなく、学部や大学院の学生諸君に接することでできるのができるのも楽しんでいました。東京外大のよう

○お薦めの1冊
『理由2』
TAKAGAKI Toshihiko
西ヶ原キャンパスの4年半を含めて19年勤めました。専攻語や学問領域、学内の様々なセクションを越えて、第一線の研究者である同僚の皆さんと親しく日常的に交流できたことが一番の収穫でした。大学の仕事に追われながらも、のびのび研究でき大満足です。またリレー講義などを通して、スペイン語だけではなく、学部や大学院の学生諸君に接することでできるのができるのも楽しんでいました。東京外大のよう

○お薦めの1冊
『理由1』
TAKAGAKI Toshihiko
西ヶ原キャンパスの4年半を含めて19年勤めました。専攻語や学問領域、学内の様々なセクションを越えて、第一線の研究者である同僚の皆さんと親しく日常的に交流できたことが一番の収穫でした。大学の仕事に追われながらも、のびのび研究でき大満足です。またリレー講義などを通して、スペイン語だけではなく、学部や大学院の学生諸君に接することでできるのができるのも楽しんでいました。東京外大のよう

○お薦めの1冊
『理由4』
TAKAGAKI Toshihiko
西ヶ原キャンパスの4年半を含めて19年勤めました。専攻語や学問領域、学内の様々なセクションを越えて、第一線の研究者である同僚の皆さんと親しく日常的に交流できたことが一番の収穫でした。大学の仕事に追われながらも、のびのび研究でき大満足です。またリレー講義などを通して、スペイン語だけではなく、学部や大学院の学生諸君に接することでできるのができるのも楽しんでいました。東京外大のよう

○お薦めの1冊
『理由3』
TAKAGAKI Toshihiko
西ヶ原キャンパスの4年半を含めて19年勤めました。専攻語や学問領域、学内の様々なセクションを越えて、第一線の研究者である同僚の皆さんと親しく日常的に交流できたことが一番の収穫でした。大学の仕事に追われながらも、のびのび研究でき大満足です。またリレー講義などを通して、スペイン語だけではなく、学部や大学院の学生諸君に接することでできるのができるのも楽しんでいました。東京外大のよう

○お薦めの1冊
『理由2』
TAKAGAKI Toshihiko
西ヶ原キャンパスの4年半を含めて19年勤めました。専攻語や学問領域、学内の様々なセクションを越えて、第一線の研究者である同僚の皆さんと親しく日常的に交流できたことが一番の収穫でした。大学の仕事に追われながらも、のびのび研究でき大満足です。またリレー講義などを通して、スペイン語だけではなく、学部や大学院の学生諸君に接することでできるのができるのも楽しんでいました。東京外大のよう

（編集後記）10号目の本誌は来年度誕生する大学院国際日本専攻を特集した。ギリのよい号に東京外大の一番ホットな、変わりつつある局面を特集できたのがうれしい。幕末からの歴史を持つ本学が、社会から期待される役割を不变に果たすためには、逆に常に変わり続けなければならない。そんな変革の渦中を追った今回の特集、楽しんでいただければ幸いである。

（編集子）V



東京外国語大学
Tokyo University of Foreign Studies

GLOBE Voice
グローブボイス
2015 Number 10
The Magazine of Tokyo University of Foreign Studies

2015年10月発行

発行＝東京外国語大学
〒180-8534 東京都府中市朝日町3-11-1

総務企画課広報係

編集＝広報マネジメント室
編集協力＝日経BPコンサルティング
印刷＝大日本印刷

アートディレクション＝犬飼健一

表紙撮影＝市橋織江
デザイン＝糸川あみみ（犬飼デザインサイト）

（東京外国語大学2015
本誌記事・写真・イラストなどの無断転載を禁じます。）